SUPER
difference theater
SONI娘
9th Photography
アニバーサリー編
macaron

「本日は私の誕生日撮影会にお越し下さり
本当にありがとうございますっ！
楽しい撮影会になるように頑張らせて頂きますっ」
「また来てしまいました～」
「スタジオのセット豪華だな」
「こ…これがそこに子ちゃんの撮影会…」
「こちらが
ご接待する側なのに
皆さんから沢山プレゼントを
頂いてしまって嬉しい半面
なんだか申し訳ないような気分です
ですから、その分いっぱいサービスでお返し
させて頂きたいと思いますっ」
macaron

今日は私の誕生日を記念して頂いた
すーぱーそに子ファンクラブの特別撮影会です。
ファンクラブでは会員特典として
普段お見せ出来ないような
いつもより少し過激な撮影が行える
サービスが存在します。
そして今日は、プレゼントに
頂いたマカロンを食べてから
なんだかいつもより
気分が高揚してしまって…
自分でもちょっとおかしなテンションになって
しまっているのがわかります
マカロンに何か気分を昂ぶらすような成分が
混ざっていたのでしょうか…？
でも例えそれが意図的に混ぜられた物であっても
折角ファンの方から頂いたお気持ちですから
全部頂くようにしています。
macaron

「パンツが撮りたいのですか？、
そんなに姿勢を低くしなくても大丈夫ですよ
こうすればしっかり見えますでしょうか？
衣装ではなく自前の下着ですが
今日の為に可愛いのもを選んできました
そこに子のパンツいっぱい撮って下さい」

「え？ えぇ？ そこに子ちゃんって
こんなことまでしてくれるの？」

「おおっパンツ丸見え！」

頭の中がぽわぽわして
自分が今とっている行動や言動さえ
なんだか遠くで起こっている
ことのように感じてしまいます。
私…まだ何も要求されていないのに
自ら下着をファンの方に晒してしまってます。
本当にちょっと思考が
おかしくなってしまってます。
…でも…皆さんすごく喜んでくてれて
私も嬉しい気分です。

「そこ子ちゃんそのままダブルピースして！」
「はい、こ…こうでしょうか？」
「おおおっ 普段のそこ子ちゃんからは感じないビッチ臭が！」
「いつもと違うエロさだ！」
カシャ
パシャ
パシャ
私が要求されたポーズをとると会場から一斉に歓声とシャッター音が鳴り響きます。なんだか過激なポーズよりも恥ずかしいですが皆さん凄く喜んでくれてます。もっと…もっと喜んで欲しいです。

「そに子のおまんこさんはこの位置にあります
しっかりピントを合わせて下さい♡」
「今日のそに子ちゃんノリが良いな！」
「ちょっと…そに子ちゃんの口から
オマンコって…良いの？
撮影会っていつも
こんな感じなのか？」

女性器の位置をきかれ
手でハートの形を作って位置を教えると
私の行動にひときわ戸惑っている
男の子がいました。
撮影会初参加の方でしょうか？
すみません普段はこんなに進んで
エッチなことはしないのですが…
イメージダウンさせてしまったでしょうか？

でもその男の子は
カメラのシャッターを切ることや
瞬きすら忘れて
ずっと私の下着に視線が釘付けです。
「もっと見たいですか？
左右を指で押さえつけるとおまんこさんの
形がくっきりと浮かびあがるので
位置が良くわかります
でしょうか？」
「すげぇ…そこに子ちゃん
パンツの上からオマンコ
くぱぁしちゃってるよ！」
初参加の男の子の食い入る様な視線に
私はおまんこに下着をぴったりと貼りつかせ
更に視線を誘ってしまいます。
あぁ…喜んでる
戸惑ってはいますがすごく興奮してくれて
いるのがひしひしと伝わってきます。
ぱっ

撮影会では基本私に触れては、
いけないルールがあります。
ファンクラブの方々は
それをしっかり守ってくれているので
私も安心して撮影会を進行することが出来ます。
エッチな方は多いですが
皆さんとても優しく紳士的なのです。
私に直接触れることは出来ませんが
撮影の補助として支給された棒を使用して
衣装の曲がりや髪を直したりすることは
許されています。

しかし、皆さんは
大抵この棒を私への悪戯道具としてしまいます。
今日も既にパンツが丸見え状態のスカートを
更に捲り上げられたりブラを着用して
いないことをさり気なく確認したり…
私へのエッチな悪戯が暗黙の了解に
なってしまってます。
でもそんな子供っぽい行為がなんだか
可愛く思えてしまい…私自身もされる悪戯を
少し期待して嬉しさを感じているのです。

「こんな小さなパンツで…下の毛がはみ出たりとかしないのかな…？」
「なんだ、撮影会初参加可か？そこに子ちゃんのアソコはツルツルのパイパンなんだぜ！ほらっ！」
「あぁっ パンツの中を覗いてはいけませんっ」
棒で下着をずり下げられ中を覗き込むようにいくつものカメラのシャッターが切られます。完全に見えているわけではないのになんだかこういう撮られ方は妙に恥ずかしくて変に興奮してきてしまいます。

悪戯が過激化してしまう前に、
衣装直しを提案して
誕生日プレゼントに頂いた下着を
公開試着することにしました。

わかってはいましたが
どの下着も際どい物ばかりで
取り敢えず一番
過激でないものから
お披露目します。

まずは水色の可愛いリボンが付いた
マイクロビキニタイプの下着です。
紐の様に細い布地では乳首の突起を覆い隠す
だけで精一杯で…下着の端からは
隠しきれない乳輪がはみ出してしまってます。
パンツの方も撮影会の雰囲気に興奮して少し
膨らんだ小陰唇が…おそらく少し…はみ出して
いると思います…ファンの皆さんの
興奮度合いがそれを私に自覚させます。

「あれ下着がちょっと透けてきてないか？」
「え…そうなのですか…？白い生地なので透けやすいのかも知れませんね…」
「汗を吸って肌に貼り付いてるんだ」
「わ…全部見えちゃいそうっ」
恥ずかしさで変に興奮しているせいか身体は火照りじっとりと汗をかいてきてしまいます。汗で濡れた肌は照明を浴びて艶かしく光りただでさえ生地の薄い下着は僅かに隠れている乳首や性器の色までも浮かび上がらせてしまっています。

「よく見えないな…もっと近くで」
「えぇ…そんなに近づいて良いの？」
「こういう所で遠慮なんかしてると
損するぞ お前もこいよ」
興奮した皆さんが
間近で透けた下着を見ようと
舞台に身を乗り出してきます。
「そこ子ちゃんのムチムチした股間のお肉が
パンツを挟み込んじゃって
折角プレゼントした下着がよく見えないなぁ～
指で広げて見せてよ」

「こ…こうでしょうか…？」
「おおおおっ！そこ子ちゃんの
オマンコ完全に はみ出ちゃってる！」
下着を挟んでいる大陰唇を指で左右に
割り広げると一斉にシャッター音が鳴り
フラッシュが焚かれました。
紐のように細いパンツの
布地から小陰唇がはみ出し
広げることによって更に性器に貼りついた生地は
もう勃起してしまっているクリトリスの突起を
象り浮かび上がらせています…。
当然こうなることがわかっていて
ファンの方は私に指示を出し
そして私はそれをわかったうえで…
その指示に従ってしまっているのです。
く
ぱぁ

2着目はニップレスや前張りのように
身体に貼り付けるタイプの下着です。
もうこの時点で下着というカテゴリーから
外れてしまっていますがこれを付けている
私の姿を見たくて贈ってくれたお品物ですから
恥ずかしくても試着します。
…いえ…今日の私は…寧ろ自ら見て欲しいと
さえ思ってしまってます。
ゴムで出来たパート型のシールは
とても小さくお尻の穴が完全に
撮影会参加者さん達の目に晒されてしまってます。
「そこに子ちゃんお尻の穴が見えちゃってるよ」
「と…撮っちゃって良いんですか？」
「はい…プレゼントして頂いた下着をつけた
私の姿を…どうぞお撮りください」

「剥がれそうになってるよ直してあげないと」
「あ…ありがとうございます…んっ♡」
「そこ子ちゃんのお尻の穴すごくヒクヒクてる！」
「そ…そんなことは…」
クリ♡
クリ♡
クリ♡
皆さんが私の乳首やアソコを丁寧に擦ってきます。
指し棒は後端のノックボタンを押し込むと先端部分が振動する仕組みになっていて軽く触れられただけでも身体が敏感に反応してしまいます。
感じてしまっていることに気付かれないようになんでもないふりをしますが丸見えになっているお尻は痙攣を隠せず直ぐにバレてしまいます。

「ちょ、硬くなった乳首がニップレスを
突き破って出てきたっ」
「アソコのほうに少し見えてるの
これクリトリスだよね？
そこ子ちゃん感じちゃってるの？」
「丁寧に愛撫して頂いたので……身体が
それに反応してしまいました…」
シールの中央には
スリットが入っていて
乳首やクリトリスが勃起すると
隙間が開き先端が出てきてしまう
仕組みになっていました。
私の身体は皆さんの期待通りに反応して
目を楽しませています。
ピッ
ピッ
ピッ
ピッ
ピッ
ピッ

「その下着には付属品がついてたでしょ？」
「あ、この鍵のアクセサリーですね
これはどのような物なのでしょうか？」
「貸してみて　これはココの穴に…」
「あぁっ　そんな処に差し込んでは…」
クリトリスのスリットの下に
小さな穴が空いていてそこに
鍵のアクセサリーを差し入れると
冷たい感覚が直接性器に触れてきます。
その位置はぴったり尿道の位置と
重なっていました。
きっとそうなるように作られていたのです。

「そんな処って何処かな？そこ子ちゃん？」
「そ…その…おしっこの…穴です…
あぁ♡そんな押し込まれたら
中に入ってきてしまいますっ
んぁ…♡」
ピクッ♡
ピクッ♡
ピクッ♡
ヌプッ
私は鍵のアクセサリーを尿道へと
深く咥えこんでしまいました。
エッチな撮影に興奮して感じていた
私のアソコは既に愛液を溜め込んでいて
漏れ出ないようにずっと我慢していましたが
こんな状態で尿道を広げられてしまえば
もう…自分の意志では
どうすることも出来ません。

「あぁあぁ…出ちゃった…」
「おおっオマンコ汁溢れてる！そこに子ちゃんこんなに溜め込んでたのかっ」
「すみません…おまんこ汁…漏らしてしまいました」
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ピュッ♡
あぁ…こんなみっともない姿を見られて写真や動画にまで撮られてる…私がみっとなく恥ずかしい姿を晒せば晒すほどファンの皆さんの目は嬉しそうに輝きすごく喜んでくれているのが伝わります。嬉しい…もっと…もっと喜んでもらいたい私の心にどんどんとおかしな感情が芽生えてきます。

「オマンコ！そこに子ちゃんのオマンコが
完全に見えちゃってる！
と…撮っても良いんだよね？」
「下着を着用してるんだから
問題ないよね？そこに子ちゃん」
「はい…どうぞ沢山お写真…撮って下さい」

3着目は乳輪にはめる
リング状のフリルとおまんこの周りを
ハート型に象ったアクセサリーでした。
それはもう下着とは名ばかりです。
乳首や性器を隠すどころか
より卑猥に見せるためのアクセサリーでした。
サイズもぴったりで…常連の方にはもう
私の乳輪のサイズまで知り尽くされて
しまっているのだと改めて自覚してしまいます。

「これにも付属品があるんだよ
付けてみて」
「あの…これは？」
「付ければ解るよ」
それはベルのようなカップに
旗の付いた棒が刺さった
見たことのないアクセサリーでした。
棒の根本がクリップになっており
私の乳首とクリトリスを挟み込みます。
この時点でどんな趣向のアイテムなのか
なんとなく予想がつきました。

「旗がすごく振るえてるよ
そんなに気持ちいいの？」
「挟まれた乳首とクリトリスが刺激されて
敏感に…反応してしまってます…」
「全然止まらないね」
ぶるぶる
ピクン
ブル
ブル
ピクッ
ぶるぶる
ピクッ
棒は私の突起した部分が起こす微細な
痙攣を捉え先端の旗を大げさに振るわせて乳首や
クリトリスの反応を視覚化させる為のものでした。
振るえた旗の振動がまた乳首とクリトリスを刺激し
痙攣させるのでずっと動き続けてしまいます。
何かをされているわけではなく動かしているのが
自分自身だと思うと まるでオナニーを
見られているような気持ちになってしまいます。

「あぁ♡とまらない…イク…このままでは…イッてしまいます…あぁぁぁぁぁ♡だめ…あっ♡あっ♡あぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ～～～～っ♡♡」
「うおぉっ！そこ子ちゃんマジでイッちゃってる！」
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ぷしゃっ
身体の反応が大きくなる度に旗の振動も激しくなり更に刺激が強くなるというサイクルを繰り返し自分の意思と無関係に半永久的に続く自慰行為を晒しながら私は遂にオーガズムに達してしまい。ファンの皆さんに見られながらオナニーでイッてしまいました。

「そこ子は皆さんの見ている前で独りで気持ち良くなり…勝手にイッてしまいました…謝罪としてすぐにイッてしまうはしたないおっぱいとおまんこを晒してお詫びをさせて頂きます」

「もう一声！」

「そ…そこ子のいやらしいおっぱいとおまんこを…隅々までじっくりご覧ください♡」

「はい、良く言えましたっ」

撮影会では流されるままにいつもこの様な展開になってしまいます。絶頂を迎え既に思考がぽわぽわとしてしまっている私にはもう冷静な判断など出来ません。もっと見て喜んで欲しい…そんな欲望のままの欲求に理性の箍(たが)は外れてしまいます。

「ほら、エッチなポーズ取ってよ」
「こ…こうでしょうか？」
「うわっ
オマンコ見せながらトロ顔で
ダブルピースとかビッチ過ぎる！」
「はい…そこ子はエッチな女の子です…だから
いやらしいお写真いっぱい撮ってください♡」
「ここまで積極的になるなんて
媚薬入りマカロンの効果は絶大だな」
「お前そんなもんプレゼントしてたのか」

「そこ子のおまんこはココです♡
しっかり撮って下さい♡」
「手でオマンコにハートマーク作ってる！」
「積極的なそこ子ちゃんも良いなぁ」
既に丸見えのおまんこの位置を
指で囲い強調します。
手のひらで大陰唇を押さえつけ
おまんこを左右に開き
更に見えやすくしたうえで
さり気なく親指でクリトリスの包皮を捲り
小さな突起までいやらしく剥き上げ
見せてしまっています。
ピロ

「それとな～くオマンコ開かないで
しっかり広げて見せてよ
そこ子ちゃんもオマンコ見て欲しいんでしょ？」
さり気なくしていた行為もファン皆さんには
しっかりと見抜かれていました。
見て欲しくてウズウズしてしまっているのは
もうバレバレでした。
指示に従い女性器をさらけ出します。
「はい…指で広げてくぱぁ…しちゃいます
おまんこ…見て欲しいです
そこ子のおまんこ見てください♡」
「うひょ～っ！オマンコ丸見え！」
「そこ子ちゃんそのままオシッコしてよ！」
「お…おしっこ…ですか…？」
くぱぁ♡

謝罪として最も恥ずかしい
排泄行為を晒すことを要求されます。
命令されて人前で放尿を見せている自分は
完全服従してしまっている気持ちになり
恥ずかしさから起こる興奮とはまた違う
高揚感が私を襲います。
「お…おしっこ…しちゃいます
おしっこする処…見てください♡」
ぶるっ
ぞわっ
「ん…あぁ…んっ♡
おしっこ…出ちゃいました
…見えますか？」
どんなにはしたいない姿を晒しても
ファンの皆さんは私を好きでいてくれます。
それがとても嬉しくて…とても幸せです。
放尿を見せる気持ち良さと解放感で
おしっこしながら軽くイッてしまってます。
チョロロッ

「オマンコが連続でヒクヒクしてるよ
この痙攣の仕方はもう
イッちゃってるときの反応だね」
「は…はい…放尿を見られる気持ち良さに
興奮して…おしっこしながら
甘イキしてしまいました♡」
イク時に起こすおまんこの痙攣の仕方さえ
知り尽くされてしまっているので
ファンの皆さんにごまかしなんて通用しません。
そもそも私に好意を持ってくれている方達に対し
自分を取り繕う必要なんてなかったのです。
私を好きでいてくれる方達に私は
自分の全てを差し出します。
そに子は皆さんの所有物です♡
ヒク
ヒクッ
ヒク

「そこ子ちゃんにこんなこと
させちゃって本当に大丈夫なの？
エッチな撮影を出来るのは嬉しいけど
凄く嫌なのに優し過ぎる性格だから
無理して我慢してるんじゃ…？
突然引退なんて事になったら僕は…」
「あ…撮影会初参加の方ですね
お気遣いして下さりありがとうございます」
「普段との違いに
びっくりさせてしまいましたね
ご心配しなくて大丈夫ですよ…私はその…
自分で言うのはお恥ずかしいのですがエッチな
こと自体そんなに嫌いではありません
何より撮影会で私のエッチな姿を見た皆さんが
すごく喜んでくれているのが堪らなく嬉しくて…
その…皆さんの視線を浴びるとおっぱいと
おまんこがきゅんきゅんしてしまうのです」

「ほら、そに子ちゃん そに子ちゃんの身体をまだ良く知らない ご新規さんに特別サービスしてあげなよ」
「はい…ご遠慮なさっているようですので その…私の身体に興味を持って頂けていれば ですが…自由に悪戯して欲しいです」
「い…いいの？」
クリ♡
コリ♡
「はい 指し棒でおっぱいをイジメて下さい♡」
「こ…こんな感じ？」
「あぁ♡…はい…そうです…」
「すごい…そに子ちゃんのおっぱい！ ぷっくりした乳首も今、全部独り占めしてる！」

「あぁっ 振動のスイッチを入れると
おっぱいがすごくジンジンしてしまいます
乳首はそこに子の敏感な性感帯です
感じて…身体が反応しちゃいます
今日はそこに子の性感帯を全部教えますので
いっぱい感じさせてください」
「僕の愛撫でそこに子ちゃんが感じてる！」
「感じるだけじゃダメでしょ
性感帯ならちゃんとイクとこも
見せてあげないと」
「はい…このまま、おっぱいで
そこに子をイカせて頂けますか？
特に今日は気分が昂ぶってしまっていて
直ぐにイッてしまいそうです」
ヴヴヴヴヴ
ヴヴヴヴヴ

「あぁあぁぁっ♡イク…♡
おっぱいでイッちゃいますっ
そこに子のイキ姿…見て…くださいっ
あっ♡イクっ♡あぁぁぁあぁぁぁ〜〜〜〜っ♡」
「おおおお…本当にイッた！
僕の愛撫でそこに子ちゃんイッちゃった！」
「そこに子ちゃんはイク度に
潮吹きするからイッてるのがモロバレだよな」
「はい…エッチな姿を見て欲しくて
喜んで欲しくて…
身体がいやらしく反応してしまうんですっ」
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクンッ♡
ヴヴヴヴヴ…
ヴヴヴヴヴ…
ピュッ♡

「わかりますか？もう乳首がピンピンに硬くなって勃起しちゃってます」
「おぉ…プックリ膨らんで艶々してる！」
「見るだけで良いのですか？お写真は撮って頂けませんか？」
「弄られて乳輪まで興奮して膨らんだぴんぴんの勃起乳首を隈なく写して下さい♡」
「おおっ今、自分が勃てた乳首を撮ってる！」
「そうしたら…次は…おまんこも…悪戯して頂けますか…？あの…では…ちょっと失礼して…」
ぴん
トロ

「舞台からおしりを突き出させて頂きます…
おまんこ…良く見えますか？」
「うおぉ…そこにさちゃんの
オマンコが目の前に！
お尻の穴まで全部丸見え！」
「もっと間近で見て良いんですよ
そう…あっ♡…息が掛かるくらいに
近づいて見て下さい♡
そこに子のおまんこ…如何でしょうか？」
「すごい！ 色が薄くて…すごく艶々プルプルしてて
呼吸に合わせて…僅かに動いて…すごくエロい！」

「体勢を変えたのでクリトリスがまた皮を被ってしまいました…剥いて頂けますか？」
「こ…ここですか？」
「はい…そうです…包皮を上に捲り上げて下さい」
「あぁ…♡出てきちゃいます…この包皮がニュルッと捲れあがってクリトリスが剥き出しになる瞬間が凄く気持ち良いんです」
クニ♡
クニ♡
SUPER SONIC WAVE
SUPER SONIC WAVE

「あっ♡出ちゃいました♡クリトリス…ズル剥けにされて丸裸になっちゃいました」
「ピョコって出てきたっか…可愛いっ！」
ピョコッ
「ここがそこに子の一番敏感で一番エッチな性感帯…クリトリスです♡敏感すぎて勃起してしまうと歩いているだけでも下着と擦れて感じてしまうんです…」
SUPER SONIC WAVE
SUPER SONIC WAVE

「あ、膨らんできた！」
「あぁ…見られて意識したのと剥き出しになった解放感で…勃起してきてしまいました」
「勃起したクリトリス、撮っちゃうよ」
「はい、そこに子の恥ずかしく膨れ上がった突起を差し出します…写真にお収め下さい」
カシャ カシャ カシャ
「あぁ…や…乳首まで反応してまた勃ってきちゃってます」

「そこ子ちゃんのクリトリス
どれくらい感度が良いのか弄ってみて良い？」
「勃起したクリトリスは
特に敏感になってますので
優しくお願い致します…
んんぁっ♡」
ビクッ♡
ビクッ♡
ピュウウ♡
ビクンッ♡
ピクッ♡
「おおっ
軽く触れただけでもうイッちゃってるよ」
「すみませんっ
触れられるだけで
電気が走ったような快感が身体の中を
突き抜けてしまいます…」

「こんなに簡単にイッちゃったら全然悪戯し足りないね」
「あぁっ♡クリトリス…挟んでは…んんぁ♡」
「身体が痙攣する度にピュピュって潮吹きしちゃって可愛いオマンコだねもう全然イクのが止まらないよ」
「あっ♡あぁっ♡ 連続してイッちゃってます…だめ…このままでは…クリトリスだけで果ててしまいますので…他の性感帯を…」
ビクッ♡
ビクッ♡
グニィッ
ピュッ♡
ピュッ♡
ビクンッ♡

「次は…先程からずっと潮吹きしっぱなしで人前でお漏らしまでしてしまう…絞まりのないおしっこの穴をイジメて頂けますか…？」
「こうすると尿道が広がって丸見えだね」
「おしっこの穴も好きなだけ悪戯してください♡」
「あれ？ でも、ここも性感帯なの？」
「はい…以前は違いましたが…その…皆さんに…尿道を弄られる快楽を教えて込んで頂いて…尿道イキ出来るように開発されてしまいました…」
ピロ

「あ…棒の先端がおしっこの穴の中に入ってきます…あぁぁ♡
ブルブル震えて…感じてきちゃいます♡
「すげぇ…尿道で咥えこんじゃってる」
「まだ覚えたての性感帯をどうぞいっぱいイジメて下さい♡
あぁ…気持ち良い…ですおしっこの穴…気持ち良い♡
もう…イキそうです…そこ子は尿道イキしてしまいそうです」
ぷるぷる
ぷるぷる
ヴヴヴヴ…
SUPER SONIC WAVE

「あっ♡ あぁあぁっ♡ んくっ…んぁあぁ♡」
「身体がビクビク震えてるよ イッちゃってるの？」
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクンッ♡
チョロロ…
「は…はいっ…もうイッてしまってます…
…ですが…おしっこの穴が棒の先端で塞がれて
イッても潮吹き出来なくて…
とても切ない気分になってしまいます
どうか…気持ち良くイカせてください♡」

「あぁぁぁぁぁぁぁ～～～

「あぁ～～～～～～～～～～～っ」
「あ～あ、漏らしちゃった」
「すみません…おしっこの穴でイクとお漏らし絶頂してしまうんです…」
ぷるぷるぷるぷる
ジョオオー♡
「喜んでくれる方もいますが抵抗の有る方もいますよね…お目汚ししてしまって申し訳ございませんあの…一度漏れてしまうと…止められなくて…すみません…もう少し待って頂けますか…？」

「女の子のオシッコってこんなふうに出るんだ…間近で見るのなんて初めてだ…」
「あの…お恥ずかしいです」
「お漏らし絶頂って気持ち良いの？」
「は…はい…絶頂と放尿の解放感を同時に体感するので普通にイクよりもすごく…気持ち良いです…それと…失禁というしてはいけない行為を晒してしまう背徳感も合わさって言い様のない快感に襲われてしまいます」
ヒク
ヒクッ
ヒクッ
ピチャ
ピチャ
SUPER SONIC WAVE
SUPER SONIC WAVE

「んぁっ♡」
「ビクって痙攣するとまたオシッコがピュって出ちゃってるね」
ビクッ♡
ピュッ♡
「申し訳ございません…も…もう出終わりますからっ少しだけご勘弁下さい」
「おっ また出たっ」

「あの…もしかして喜んで頂けていたのでしょうか？私がお漏らししている間ずっとおしっこの穴を広げて凝視されていましたので…」
「うん…苦手かと思ってたけどそこに子ちゃんのなら全然汚く感じなかったよ
「寧ろもっと見たいくらいエロかった」
「あ…ありがとうございますでも…その…もう全部出し終わりましたのでおしっこの穴を広げて…じっと覗かれたまま…おしっこの出待ちをされると…ちょっと…と言いますか…ものすごく…恥ずかしいです」
かぱっ
ヒク
ヒクン
ヒク

「次はいよいよ膣を…」
「はい…ですがそこは最後のお楽しみです♡
その前に次は…その…もう少し下の方を…」
「もしかして…アナル!?
ここも開発済みなの?」
「その…は…はい…キレイにして
ありますので…抵抗がなければですが
…ここも悪戯をして…
あぁ♡…もう広げられちゃってます
せっかちさんですね♡
そこに子のおしりの穴もたっぷりイジメて
イカせてください♡」
くぱっ♡
SUPER SONIC WAVE
SUPER SONIC WAVE

「おしりの筋肉が緩むまで
少し時間が掛かりますので
ローターをゆっくり差し込んで下さい」
「こう…？あ、埋まっていく」
「はい…あぁ♡入ってきます」
「そこに子ちゃんのアナルが
ロングローターを咥えこんでる」
「あぁ…振動がおしりの奥に伝わって
感じてきてしまいます…一度入ってしまえば
もう動かして大丈夫です」
ピク
ピクッ♡
ぬぐぐっ
ヴヴヴヴヴ…

「あっ♡ あぁっ♡ ピストンされてます
おしりが気持ち良くておまんこがヒクヒクして
しまってます」
「オマンコ良く見せて」
「あぁ…おまんこ…くぱぁされちゃってます♡」
「アナル責めですとおまんこが隠れないので
イク瞬間のおまんこをじっくり見られちゃいます
写真にもばっちりと写せますので…
アナルイキで痙攣しながら潮吹きする…そに子の
いやらしいおまんこ…いっぱい撮って下さい♡
んぁ…♡ もう…イッてしまいそう…ですぅ
おしりの穴でイッてしまいます?」
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ぱぁ
く
ズプ
ズプ

「あぁぁぁっ♡イクっ♡んんっ♡
あ…ぴゅって出ちゃいました
潮吹き痙攣おまんこを広げて見られながら
アナルイキしてしまってますっ♡」
「オマンコもアナルも別の生き物みたいに
ヒクヒク動いてる」
「アナルイキってどんな感覚なのか
僕にも教えてよ」
「はい…あまり綺麗な表現ではありませんが…
排便の解放感を何倍にも
気持ち良くしたような感覚です…」
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ピュッ♡
ヒク
ヒク
ヒクッ
SUPER SONIC WAVE

「そこに子ちゃん初参加者が相手だからって
お上品ぶっちゃって
いつも、もっとぶっといの咥え込んでるのに」
「あの…それは…太いのを入れられると
楽しんで頂くサービスする余裕が
なくなってしまいますので…」
「そこに子ちゃんがマジイキしてるとこ」
見れるほうが楽しいに決まってるじゃん
ほらこっちを突っ込んでイカせてあげなよ」
「え…こんな太いの入るの…？」
「あぁ…それは…っ」

「あ…あぁあぁ…っ♡」
「すごいよそこにぶちゃんアナルがこんな大いバイブをどんどん飲み込んでいってる」
「ゆ…ゆっくりお願いします…♡」
「あぁ♡圧迫感がすごくて上手く呼吸が…出来なくなってしまいます…」
「一度入れればもう動かして平気なんだよね」
「そ…それは…ローターの時のお話で…」
ぶるっ
ぶるぶる
ぶるぶる
ヒクッ♡
ヒクッ♡
ヒクッ
ヒクッ
ぬぐぐッ

「あぁあぁぁあぁっ♡♡
極太のバイブが…おしりの奥を穿り回してくる…
あっ♡んぁあぁぁあぁっ♡」
「オマンコ痙攣しっぱなしだね
ピストンする度に潮吹きしてる」
「バイブをひっぱる時に潮が噴き出してるね
ってことは押し込む時より
引き抜く時のほうが気持ちいの？」
「はい…あぁ♡
勢い良く引き抜かれると…漏らしてしまっている
ような感覚が襲ってきて…イッてしまいます♡」
ピクッ
ピクッ
ピクッ♡
ピクッ♡
チョロッ
ずぷぷッ
ずぽっ

「もっと勢い良く動かしたほうが良いんだね」
「あっだめ…激しく動かしては…あぁあぁっ♡
イクっ♡おしりの穴をめちゃくちゃに
穿り回されて…本気イキしてしまってますっ♡
も…もう頭の中が真っ白になってしまいそう…
あ…あぁ♡あぁぁぁぁぁ〜〜〜っ♡♡」
ぷしゃあぁぁぁ…♡
ビクッ♡
ビクンッ♡
ビクッ♡
ビクンッ♡
「ものすごい潮吹き！
さっきまで本気でイッてなかったんだ
でもおしりの穴で一番激しくイッちゃうなんて
そこ子ちゃんはアナル好きのド変態だったんだ」
「あぁ♡またおしりでイッちゃいますっ♡
おしりの穴…気持ち良いです♡」

「はぁ…はぁ…はぁ…
おしりで…いっぱいイッてしまいました
もうおしりの筋肉がゆるゆるになってしまって…
広がったまま暫く閉じれません…♡」
「わぁ…これが…ポッカリアナル…」
「初めて見た…しかもそれが
憧れのそこに子ちゃんのアナルだなんて」
「お見苦しい処をお見せしてしまって
申し訳ございません…」
「いや…本気でイッてるとこすごく可愛かったよ」
はぁ…
はぁ…
ゼクンッ
くちゅ
ちゅぷ
ポッカ

「汗が引いてポッカリアナルと
興奮して開きっぱなしのオマンコが
細部まで丸見えだよ
全部写真に撮ってあげるからね」
「はい…だらしなく開いたおまんこと
おしりの穴を晒した…いやらしいそこに子を」
「いつでも見返せるように写真に残して下さい
たくさん撮って…いっぱいオカズとして
そこに子を使って下さい♡」
「うおぉ…そこに子ちゃんリップサービス
最高に良い！撮影が捗って仕方がないっ！」

「では、いっぱいイカされて焦らされて興奮状態になってしまっている
そこ子の一番大事な部分を公開します♡
おまんこ…広げて下さい♡
膣口…おちんぽさんを入れる穴が見えますか？」
「そこ子ちゃんのオマンコ中まで丸見えだよ」
「はい、でも大事な部分はもっと…奥です
別の棒を膣の中に
差し込んで奥まで広げてください♡
いっぱいイッておまんこがゆるゆるになって
いますので抵抗なく開いちゃうはずです♡」
「お…奥って中まで入れて良いの？」
ぱぁ
ヒクッ
ヒクッ
ちゅぷ
SUPER SONIC WAVE

「おおおぉぉ…これってもしかして！」
「はい♡そこに子の子宮口…ちゃんと見えていますか？」
「ば、ばっちり見えてるよ！これが…そこに子ちゃんの子宮口！」
くちゅっ
「でも子宮口ってこんな簡単に見れちゃうの…？」
「エッチな気分が長く続くと『おちんぽさんはまだですか～？』って子宮が待ちきれずに段々とおりてきて入り口近くまで迎えにきてしまうんです♡」

「手があくようにテープとシリコンリングで
おまんこを開いたまま拡張しちゃって下さい」
「こ…これで良い？
うわ…そこに子ちゃんのオマンコが
まるで標本みたいにすごい事になってる！」
「これで子宮口を
自由に触って頂ける状態になりました♡
あなたに一番大事な部分を
無防備にさらけ出し…差し出します♡
そこに子の…子宮口…イジメて頂けますか？
大切な部分を玩具みたいに好き勝手に弄ばれて
めちゃくちゃにイカせて欲しいです♡」

「あぁ♡ 軽く触れられただけで…振動が子宮のなかまで伝わってもう…イッてしまってます♡
痙攣した子宮口をじっくりと見て頂くためのご用意がしてあります
会場で配布したアプリを起動してスマホをおまんこにかざしてみてください」
「この状況で…？
う…うん わかった」
「そういえば会員特典みたいなのダウンロードしたな…」
「何だ何だ？ そんなの知らないぞ」
SUPER SONIC WAVE
ぴゅるっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

「わわっ何だこれ？」
「すげぇ！そこ子ちゃんのオマンコがひとりでに開いてるみたいに見える！」
「何この映像！エロ過ぎる！」
「そのアプリはこちらで用意したアイテムを認識して自動で画像補正処理を行いスマホの画面から消すことが出来る仕様になっています
これで棒に視界を邪魔されることなく奥まで覗いて頂けます♡」

「あぁ…♡子宮口が刺激されて徐々に広がってきてます…
精子を注いで欲しくて口を開けちゃってます♡
そのまま…ゆっくり棒を押し込んで下さい」
ぱくぱく
「おお…棒の先端が子宮に入っちゃった！」
「も…もう一本入れて…広げて下さい…
今日は…そこに子の一番大事な部分の中まで
初公開しちゃいます♡」

「おおおっ 開いた！
子宮口がパックリ開いてる！」
「子宮の中まで丸見え！ 奥に見えるの卵管か？
全部見えちゃってるよ！」
くぱっ
「そのままスマホで写真や動画もお撮り頂けます
そこに子の大事な部分の奥の奥までご撮影ください
ファンクラブの皆さんには
そこに子のすべてを包み隠さず捧げます♡」

「こうなったら、全部おっぴろげてる写真撮ろうぜっ
尿道もお尻の穴も広げろっ」
「ならクリももっと勃起させないとな」
「あぁ♡一度に全部広げられてます」
「全部丸見え！　す…すご過ぎる…」
「おおっ　すげぇ…これが
そこ子ちゃんの全穴くぱぁ！」
「こんなん！　生モノのオカズ映像だぜっ！」
ぱぁ♡

「このアプリ画面を長押しすると詳細まで見れるぞ！」

「本当か？」

「はい…公式には発表されていないそこに子のエッチな部分の詳細プロフィールです♡」

乳首・乳輪
直径勃起時計測
乳首16ミリ　乳輪37ミリ
プックリと乳輪まで膨らむ感度抜群の乳房。

クリトリス
12ミリ（勃起時測定）
まだまだ成長中♡
敏感すぎて、下着に擦れただけでイッてしまうことも。

尿道
尿道イキすると潮吹きと同時におしっこまで漏らしてしまう程ゆるゆるに開発されてしまったおしっこの穴。

子宮口
何度も底突きされて亀頭を咥え込むまで開くように開発されてしまったポルチオ♡
至高の挿入感は正に名器。

ポッカリアナル
直径65ミリ
アナルイキを繰り返すと緩んで閉じなくなってしまうほどまで丸見えのおしりの穴♡

「愛撫してる棒が見えないからオマンコが
ひとりでに歪んでるみたいで面白いなっ」
「もうビショビショ濡れてきたぞ」
「奥までヒクヒクしてるのが丸わかりだね
そこに子ちゃんもうイキそうなの？」
「はい…イッてしまいます♡
女性器もお尻の穴も…おしっこの穴や
子宮口まで拡張されて…恥ずかしい処全部
皆さんの前に晒したままイッてしまいます…っ♡
そこに子の痴態をどうぞお納めくださいっ♡」

「イク…♡ イキますっ♡
あ…っ♡
ビクンッ♡
プシャァァァ…♡
ビクンッ♡
ビクッ♡
あぁぁぁぁぁぁ
「く♡っ～～～

「スマホ画面ばっか見てたけど
実際の絵面もすごいことになってるな」
「あぁ♡またイッてしまいました♡
玩具みたいにめちゃくちゃにイカされて
これ以上は…もう
意識がとんでしまいそうです…」
「じゃ最後にお漏らしイキしたら
許してあげるよ」
「は…はい…♡お漏らし絶頂しちゃいます…
そこに子がはしたなくお漏らしイキする処
写真に撮って下さい♡」
ビクッ♡
ビクッ♡
ピュッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
SUPER SONIC WAVE

「イクっ♡イキながら…おしっこ…しちゃいます♡
あぁぁぁぁぁ～～～っ♡
おしっこ出ますっ♡
あぁ…っ♡あっ♡あぁぁぁぁ～～～っ♡」
ビクッ♡
ビクッ♡
ミョオオ～ッ♡
プシャァ
ピチャ
ピチャ
ビクンッ♡
「出ちゃってます…おしっこ垂れ流して…お漏らし絶頂しています♡
イキながら恥ずかしい排尿行為を晒してしまってますっ♡」
SUPER SONIC WAVE

「あ…あの…まだ…許して頂けませんので…しょうか…？」
「オシッコ出し終わるまでね」
ピクッ♡
ビクッ♡
ピクッ♡
ビクッ
ビュッ
ジョボボボボ♡
「あぁ…♡おしっこしてる途中なのに…またイッてしまってますっ♡イクっ♡あぁあぁあぁ～～～っ♡♡」

「愛撫終了
ほら、初参加なんだろ
特別に一番最初を譲ってやるよ」
「え？一番って？なんの？」
「わかってるだろ？そこに子ちゃん
もう我慢出来ずに物欲しそうにしてるぞ」
「撮影の最後は
スキンシップのお時間です♡
たくさんほぐして頂いたおまんこを
…ご使用頂けませんか？
ご自身の棒で…あなたのおちんぽさんで
そこに子のおまんこをイカせてください♡」
「えぇっ！良いの？」

「あ、でもゴム付けてないっ」
「構いません…肌と肌が直接触れ合ってこそのスキンシップです♡ 生で…してください♡」
「本当に良いのかな…」
「ほら…もう待ちきれずにおちんぽさんとそこに子のおまんこがキスしちゃいましたっ♡」
ちゅぷ

「奥手さんにはそに子から襲ってしまいますっ♡
そのまま仰向けに寝ていてください
ゆっくりと腰を沈めていきますから
そに子のおまんこを…じっくり堪能して下さい♡」
「おぉ…入ってく…そに子ちゃんの
オマンコに僕のが入ってる！
すごい…小刻みにヒクヒクしながら
キュって絞めつけてくる…」
ニュプッ
ぬぢぢッ

「んっ♡あっ♡…あっ♡
そに子のおまんこ…如何でしょうか？」
「僕の上でそに子ちゃんが腰を振ってるっ！
すごく柔らかいオマンコ肉が僕のチンコ全体を
密着するように包み込んで…更にヒクヒク
絞めつけてきて最高に気持ち良いです！
…でも僕のチンコ…小さいから…その
そに子ちゃんはきっと物足りないよね…？」
ずっぷ
ずぷ
ずぷ
ずっ

「そんなことありませんよ
硬くて熱いおちんぽさん…
とっても気持ち良いです♡
ほら…おまんこが悦んで更に子宮が
おりて来てるのわかりますか？
おちんぽさんの先っぽと子宮口が
あたって…ちゅ～しちゃってます♡」
「先に何か当たってる…これが子宮口？」
「すごい…底づきしてるっ
これが底づきするって感覚なんだっ」
ズッ ズプ
ぢゅ♡

「まだ…もっと気持ち良くして差し上げたいです♡腰を突き出して下さい…更に奥に…あぁっ♡んっ♡…入りました♡」
「うぅっ…亀頭が何かを突き抜けた感覚が…」
「はい…子宮口がおちんぽさんを咥え込んで…先っぽが…その子の子宮の中に入ってます♡」
ぎゅぅぅッ
ぬぽっ♡
「赤ちゃんを作るお部屋に…おちんぽさんを招き入れてしまいました♡」

「子宮口が亀頭を擦りつけてきて
気持ち良すぎる…だめだ…もう出そう…
でもまだ抜きくないっ！」
「イキそうですか？
はい…このままなかにどうぞ♡
そこ子はもう動く度に甘イキして…
おまんこ汁を漏らしながら絶頂を
我慢していますっ」
ぷるぷる
ぷるぷる
ずぽずぽ
ぬぷぬぷ
「そこ子は…もういつでもイケますっ
おちんぽミルク…なかにください♡
射精の勢いでそこ子も一緒にイカせて下さいっ♡」

「出るっ出るよっ！そに子ちゃん！」
「はいっ♡ そに子もイッちゃいますっ♡」
「うぅっ！」
「あぁっ♡ 熱いのが注がれてイクっ♡
あぁあぁぁあぁぁぁぁぁ～～～っ♡♡」
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
びゅるっ、びゅるる、
「はぁ…はぁ…っ
出た…そに子ちゃんに中出ししちゃった…」

「まだ…お硬いままですね…んっ♡あっ♡」
「うぉ…更に動かしてくる…」
「はい♡ 精液が絡みついたドロドロ状態のおちんぽさんで擦られるともっと気持ち良いです♡おちんぽさんが満足するまでそこに子の子宮に何度でも射精して下さい♡」
「そこに子ちゃん…そんな動いたら…またっ うぅっ!」
「あぁ♡ 出てきました…♡そこに子の子宮がもう精液でいっぱいです♡」
ドプ
びゅくん
びちゃ
ぴちゃ

「ご満足頂けましたでしょうか？」
「そりゃもう！射精しすぎて…頭がクラクラしてます」
「よかったです♡そこ子もおちんぽさん…とても気持ち良かったです♡」
トロ―

「ほら初参加サービスはココまで！
そこ子ちゃんこっちも我慢の限界だよっ」
「え…？んぁあぁぁっ♡
極太のおちんぽさんをいきなり…
あぁ♡あっ♡
や…以前より…大きくなってます…♡」
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクンッ♡
ぎゅぅぅぅッ
ズッ
ずぽっ
「そこ子ちゃんを悦ばすために
毎日鍛えて来てるからね」

「あっ♡あっ♡だめ…子宮の奥の壁まで突き上げられて…イクのが…止りませんっすごいです…お腹の中まで掻き回されてめちゃくちゃにされちゃうっ♡」
「そこ子ちゃんの子宮姦SEX気持ち良すぎ…もう…出そうっ！」
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ずぷっ
ずっ
パンッ
「どうぞ…来てくださいっ♡そこに子に熱い精液注いで下さいっ♡」

「あ…っ♡
あぁぁぁぁぁぁ～～～っ♡♡
すごいです…子宮がパンパンになるまで
精液を注がれて…射精の勢いで
卵巣まで届いちゃってますっ♡
排卵前の卵子まで受精させられちゃいますっ♡
あぁぁぁぁぁ～～～～～♡」
どぷっ、
どぷぷゅっ、
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ぷしゃあぁぁぁ…♡

「今日は絶対俺がそに子ちゃんを孕ませたはずっ
こんなに好きなんだからもう俺と結婚しようよっ」
「その…子宮内にあれだけ精液が混入してしまうと
返って着床しずらくなってしまいますので…
でも、もし赤ちゃんが出来てしまったら
その時は、ちゃんと責任を取るつもりです」
「え？アフターピル飲んでるわけじゃないの？
マジで俺にチャンスがあるんじゃ！？」
「お前、少し自重しろ！
そに子ちゃんは皆のものだ！」
「あの本日は私の為に集まって下さり本当に
有難うございました 私なりに精一杯おもてなしを
したつもりですがご満足頂けましたでしょうか？
撮影会はこれで解散となりますが…お一人ずつ
少しお話と記念のツーショット写真など
撮って頂けたら私も嬉しいです♡」
「よし、順番に並べ！」

「あ…もうお帰りですか？」
「は…はい」
「お急ぎでしたでしょうか？」
「いえ…そうわけでは…」
「では、お見送りさせて頂きますね
いま準備しますので少しだけ待ってください っ」
「いえっ
僕は大丈夫ですのでお構いなくっ
そ…それでは ありがとうございましたっ」

「あ～っ だめだ…会場の空気に流されるまま
そに子ちゃんとエッチしてしまった！
こんなの僕が思うすーぱーそに子ファンとして
有るべき理念となんか違う気がする…
いや…エッチな撮影会は興奮したし
楽しかったし…まさかそに子ちゃんと
本当にエッチ出来たなんて夢のようだ！
しかし何で皆、今さっきエッチした相手と
普通に会話なんて出来るんだ？
どんな神経なんだ？

僕の感覚がおかしいのか？
純情そうなそに子ちゃんが
実はビッチだったから
嫌いになったのか？
いや違う…エロくはあったけど
あれは人が良すぎてファン達からの
邪な希望までも
全部受け入れてしまっているだけだ
守ってあげたいような
僕の好きなそに子ちゃんに
何も変わりない！

でも次の撮影会があっても
平気な顔して参加する自信はないな…
どうする…僕はこのまま
そに子ちゃんのファンをやめてしまうのか？」

「あっ 良かった…追いつきましたっ」
「え？ あ…そこに子ちゃん！
もしかして追って来てくれたの？」
「はい…皆さんには少しだけ待って頂いてます
あの 私の至らなさに
がっかりさせてしまいましたか？
せっかく初参加して下さったのに
ご期待に沿えず申し訳ございませんでした」
「いえっ 違うんです！
なんかその撮影会の内容が
濃厚すぎて エ…エッチまでしちゃって…
なんか頭の中グルグルして顔を合わすのも
恥ずかしくてつい逃げてしまいました」
「そうだったのですね…
私…嫌われてしまったのかと思って…」
「いやいやっ！ そんなこと全然ありません！」

「本当ですかっ!?
では、また次の撮影会も
是非参加してくださいっ♡
来てくれることを心よりお待ちしてますっ」
「勿論です!!!」
おしまい